WHAT IT'S ALL ABOUT

N.クライン作
阿部　宏訳

中野英一画

私はちいさな小説家

ノーマ・クライン　作

阿部　宏訳

中野英一　画

篠崎書林

WHAT IT'S ALL ABOUT (A)

【私はちいさな小説家】 定 価 980 円

昭和51年11月20日 初版印刷
昭和51年11月30日 初版発行

訳 者 阿 部 宏 宮城県仙台市上杉 4—6—16
発行者 篠 崎 政 義 東京都千代田区神田錦町 1 の 13
印刷所 三 秀 舎 東京都千代田区内神田 1—12—5

発行所 東京都千代田区神田錦町1の13 株式会社 篠 崎 書 林

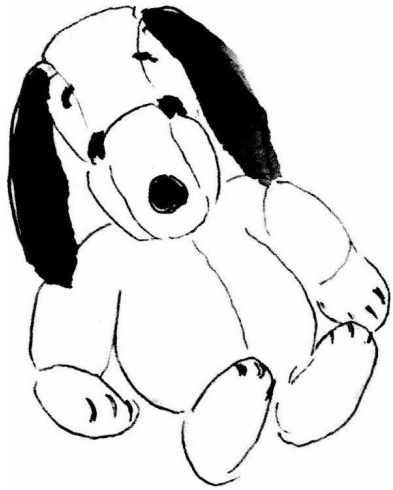
郵便番号 101 電話東京(291)1480・2107番 振替東京109182番

8097-330006-3020

乱丁、落丁、その他不完全本はお取り替えいたします。(検印廃止)

もくじ

1　ベトナム孤児（こじ）スズ　1
2　スズを迎えに空港へ　12
3　私はナイス　24
4　おばあちゃん来る　35
5　〝一人の人は愛せない〟　49
6　幽霊作家　58
7　パパの結婚　68
8　付添人帰る　80
9　おばあちゃんのボーイフレンド　89
10　煙に巻かれたマンデールさん　96



11 ジョナの家のクリスマス 109
12 秘密 125
13 へんなこと 136
14 パパからの電報 141
15 カリフォルニアのバカンス 151
16 赤ちゃんの週末 163
17 フランセスカ 172
18 クリスマスパーティ 182
訳者のことば 187

中野英二画

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

1　ベトナム孤児スズ

「その子、どうして丸坊主なんだい？」とジョナが聞いた。「三つかそこらだと思ってた。」

「頭をそらなきゃならなかったのよ、きっと。」私はジョナと写真を見ながら言った。「しらみか何かがいたのかも。」

ジョナは顔をしかめた。「うわあ、君んちに来るとき、しらみがいないといいね。」

「いないわよ。大丈夫だわ。」

「その子、いつ来るの？」

「たぶん二週間ぐらい。手紙で言って来るの。」

もちろんジョナは、家に小さい子を引取ることが素晴らしいなんて思っていない。ジョナのところにはもうザカリーという、四歳半の弟がいるからだ。ザカリーはジョナがとっても好きだ。もしザカリーがだれかの誕生祝いに呼ばれても、ジョナがいっしょでないと行かない。スズと私もそうなるかどうかは分からない。本当のきょうだいじゃないもの。違うかも知れないな。

「スズに英語を教えなきゃ。」と私は言った。
「全然だめかい？」
「うん。スズはね、南ベトナムで街をうろついていて拾われたの。そういう子を街の子っていうんだってママが言ってる。街をうろついて暮してるから。そういう子たち乞食やなんかをしなきゃならないの。」
「お父さんお母さんはどうしたの？」
「お母さんは死んだかも知れないとママが言ったわ。お父さんはアメリカ人かも分からないって。少しアメリカ人に似ているから。」
「お父さんはどうしたの？」
「国に帰ったんだと思うの。もしかしたら射たれて死んだかもね。」
最初ママがうちでベトナムの孤児を引取ると言ったとき、私はほんとにわくわくした。ほんとにいつでも私はそのことを考えていた。でも、とっても時間がかかる。ママがベトナム孤児のテレビ番組を手懸けていたとき、私は九歳だったけれど、今は十一歳だ。スズが欲しいとは思っても、実際、どうすることも出来ないことが沢山あって遅れてしまう。我慢しなさいってママは言った。私はずっと我慢したけれど、とうとう実現しそうになったら、とても本当とは思えない。九ケ月ほど前、私たちはスズのお部屋を作って、ずっとそのままにしてある。時どき私はそのお部屋に入り、ベットに腰を下ろして、私たちはそのお部屋のことを忘れていない

し、本当に人が入るんだってお部屋に教えてやっている。でも私がそのお部屋だったら、本当かしらって思うわ。

ジョナと私はニューヨークのホイットマン・スクールっていう私立の学校に通っている。家からとても近いので、お天気の日は歩いて帰って来れる。家はセントラルパーク・ウエストとコロンバスの間の九十六番通りにある。かっ色砂岩の建物で、半分に私たち、あとの半分にはよその人が住んでいる。ジョナが放課後遊びに来ると、私たちはいつもコロンバスの方に行き、クラーク文具店に寄ってワッキー・パックスとかキャンディなんかを買う。不公平だと私は思うのだけれど、ジョナはお小遣いをもらっているだけでなく、ザカリーに一冊本を読んでやるたびに、お母さんから十セントもらうので、もう第六集も、第七集も大抵持っている。私たちは前はよく学校でワッキー・パックスを交換したけれど、五年生のセイラス先生が、私たちは時間をむだにしていると言うので、学校へ持って行けなくなった。だからジョナと私は放課後に交換しているの。

「大抵はね、本当の赤ん坊だけ引取るんだ。」とジョナが言った。

「ママは赤ん坊の世話はしたくないって言ってたわ。でも大きくなるとだれも欲しがらないから、小さいうちに引取る方がいいんだって。」

ひとつ私に分からないことは、どうして女の子を引取らなければならないのかということだ。うちにはもう私という女の子がいる。どうして男の子じゃいけないのかしら。ジョナみたいな

同じ年の男の子ならすてきだわ。それならみんないっしょに遊べるもの。ママがスズを見たとき何かママの気持をつかむようなものがスズにあったとママは言っている。スズはつらい暮しをして来たのに、目に何か光るものがあったんだって。ママは子供に目のないほう。ママは教育テレビのニュース解説をしていて、ママのテレビ番組には子供のことが多い。子供の方がずっと正直に話しをするんだって。

クラーク文具店で、私たちはめいめい新しいシリーズを五箱ずつ買った。中味がちゃんと入っていないこともあるから、確かめなければならない。私はスイス・メス・ココア、ジョナはモノトニーを買った。ジョナは同じものを持っているのもあるけれど、二枚背中合わせに張り付けると、裏と表が同じになってかっこいい。こうすると二枚の新しいのと取換えられるもの。

「クラミー・ソープが入ってた。」とジョナはカードを調べながら言った。

「うわあ、いつもいいものばかり来るわね。」

「君のには何があった？」

私は私のを見せた。クリーチャー・クラッカーズ、クラフト・チーズ、スーパー・シガー・クリスプ、スナーラミント・シガレッツ、それにフルーツ・オブ・ザ・トゥーム・Tシャツだった。

「キャンデーを買ってもいいな。まだ十五セントある。」とジョナが考えながら言った。

ジョナはおやつにキャンデーを食べてはいけないことになっている。ジョナは太目だけれど、

肥満児ではない。でもジョナのお母さんは、スポーツがうまくなるように、体重を減らしたほうがいいと思っている。ジョナはスポーツは好きじゃないし、デブとは関係ないと言うけれど、お母さんはきかない。

「少し食べさしてくれる？」と私が言った。ほんとはそんなに好きではないけれど、私が少し食べれば、ジョナはあまり太らないかも知れない。ジョナは一口かじらせてくれた。でもじっと見てたから、あまり食べられなかった。

私たちは私の家にもどった。誰も家にはまだもどっていなかった。ママは火曜日はいつも遅くまでお仕事だし、義理の父のゲイブはいつも仕事場にいる。父は絵を教えているけれど、本当は彫刻を作るのがお仕事だ。父は自動車のバンパーを使って彫刻を作っている。

私のお部屋は二階で、スズのもそうだ。家は三階まであって、一番上にはママとゲイブの寝室、それに仕事場みたいなものがある。そこにママが大学生のとき買ったタイプライターがあって、それをママは私にくれた。私は大人になったら小説家になるつもり。本当は今でも小説家だけれど、まだ何も本を出していない。出版社に原稿を送りたいのだけれどママはまだ早いっていうの。どうしていけないのかしら。出版社の人に、私が何歳だなんて言うことはないのに。ママは、どうせ分かるわよと言う。どうして分かるんだろう。私は綴だってちゃんと出来る。でもママは、これからいくらでもそういうことは出来るから、子供の出来ることをして楽しみなさいと言ってる。大人はいつもそう言う。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ジョナは私の寝室の窓の近くに座って、外をながめるのが好きだ。私は双眼鏡を持っていて、ジョナはそれで人が通りを通っていくのを見る。時どき二人はスパイごっこをする。通りを行く人たちは、敵の秘密を盗もうとしてる人たちだから、私たちが見張らなきゃってわけなの。

「おうい、バーン。」あれがゲイブ。父はいつも四時に帰って来る。

「なあに。」と私は下にどなった。

「封筒買って来た？」

「忘れちゃったわ。」

「困るなあ。二度念を押したのに。」

ジョナは私を見た。「じゃあ、買いに行こうよ。」

「どうして自分で買えないのかしら、バカバカしい。」と私は言った。

「うちのママもよくぼくになにか買わせるよ。」とジョナが言った。ジョナはいつも私をなぐさめようとするの。「ぼくを家まで送って帰りに買ったら？」

「いいわ。行こう。」私は宿題にスコッチ・テープ（セロ・テープ）がいるから、骨折り損というわけでもない。

ジョナはセントラルパーク・ウエストとコロンバスの間の八十六番通りに住んでいる。私はまたクラーク文具店に行った。さっきは、ワッキーのことばかり考えていたから忘れたんだ、きっと。家につくとゲイブは吊り椅子に掛けてビールを飲んでいた。「はい。」と私は言って、

封筒を素早く投げつけた。ゲイブは片手で受けた。反射神経が鋭い。ゲイブは背が高く、がっしりしている。髪は縮れて茶色だ。海水着を着ているところを見せたいくらい。肩でもすねでも毛だらけなの。あんなのセクシーって言うのかしら。

「どうも。バーナデット。いい子だね。」とゲイブが言った。

父は私がバーナデットと呼ばれるのがきらいだということを知っている。私の名前には違いないけれど、大抵の人は私をバーニーとかバーンと呼ぶ。バーナデットなんていやだ。どうしてママはこんないやな名前を思いついたのかしら。でもママは選んだのはパパだって言ってる。パパっていうのはつまり、私の本当の父、フミオのこと。パパは日本人なの。本当は日系アメリカ人っていうのかな。アメリカで、シカゴで生れたんだから。今パパはサン・フランシスコに住んでいる。パパは建築家で、丸屋根のある大きな家を持っている。私はあの家が好き。九歳の時、クリスマスにパパのところに行った。サン・フランシスコで休暇を過すママのお友達と、飛行機で行った。私は何べんでも行きたいけれど、ママはお金がかかるからっていう。だからいつもはパパがお仕事で東部に来るときに会っている。それもそんなに多くなくて、年に一度か二度なの。ゲーブもいいけど、パパほど好きじゃない。ママは離婚すべきじゃなかったというのが私の意見だけれど、だれも私に意見を聞かせてなんて言わない。多分、ママが離婚したとき、私はたった四歳だったからなんだと思う。

夕食までに少し時間があるので、私は書斎にタイプを打ちに行った。私は今書いている小説

の人物に適当な名前を思いつかないとき、『赤ちゃんにこんな名を』っていう本から選ぶ。この本には、メアリーとか、ジョナサンなんていう普通の名前が出ている。私は又『最新命名法』という本も見る。この本には、ユーナスだとかラグナーなんていうほんとに変わった名前がある。スズという名前もこの本から見つけたの。ママが名前は私が付けていいっていうから。スズは日本の名前だけれど、トラン・チーっていう中間名はベトナムの名前だ。ママは、スズという名前の方がアメリカ風に聞えるし、言い易いと思うと言った。ママは私にも日本の名を付けたいとパパに言ったのに、パパはおかしなことにバーナデットなんていう名前が気に入ったのね。私の中間名はチカで、これは日本名。ママがベトナムの子供を引取りたいと思うのは、私たちが二人とも東洋の血を受継いでいくからだそうだ。私がもっと大きくなったら、東洋のことをもっと知るために、パパといっしょに、日本や中国に行ってもいいとママは言っている。私は日本のおばあさんにも、おじいさんにも会っていない。私が生れた時はもう二人とも死んでいたから。

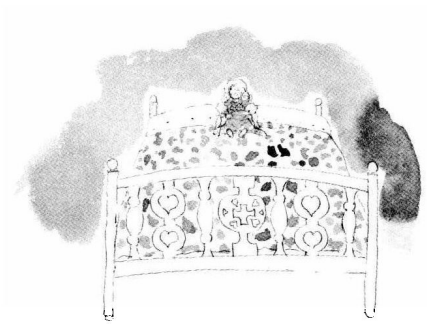
私は『赤ちゃんにこんな名を』で名前を調べるのがほんとに好きだ。普通の本のようにずっと読んでることだってよくある。その中には、名前の意味というようなことも書いてある。バーナデットは「クマのように勇気がある」っていう意味だ。この名前、ほんとに私に合うかどうか分からない。私ってそんなに勇気がある訳じゃないから。何しろ八歳まで部屋にあかりをつけて眠っていたんだもの。

スズは「小さいベル」っていう意味だ。それを日本人は「絹のお守り袋」につけ「子供の帯にはさんでやると、子供が歩くとき、かわいいリンリンという音をたてる」とその本に書いてある。絹のお守り袋って何だか私は知らない。きっと婦人用財布のようなものだと思う。でもどうして子供が持つのかしら。それに子供が、とても太っているならともかく、帯を付けるってのも分からない。うちのスズには私はベルなんて付けたくないわ。うるさいもの。もちろん日本では話は別なのね、たぶん。「鈴の音は悪魔を怖れさせるものと昔は考えられていた」とその本には書いてある。アメリカに悪魔はいないから、その点は大丈夫。その本には、「鈴は子供がころぶのを防ぐと信じられていた」とも書いてある。でもどんな風にベルが子供がころぶのを防ぐのかなあ。魔法だと思っているんだわ、きっと。とにかく、私は、スズという名前の響きがいいので選んだの。名前を縮めるときはスーとなってかわいいし、男の子だか女のだか分かんないようなバーンとか、バーニーとは違うものね。

七時に下に行って食卓の準備をしていると、ママが台所に入って来た。「ママ、日本では小っちゃな子供たち、帯を付けるって知ってた?」ママは聞えないようだった。ママは封筒を振回していた。「バーニー、あの子来るわ。月曜に。」「今度の月曜?」「そう。あと六日で。ねえ本当だと思う? 随分待ったわ。」私はスズのお部屋を見に、二階へかけ上った。私は私のいらなくなったお人形を、前にスズのベットの上にのせて置いたので、お人形たちに言った。「さあ、用意! とうとう来るのよ。」

お人形たちは黙って座っていた。当り前だわね、人形だもの。このお人形たちがもう動かなくなっているのを、スズが怒らなければいいと思う。それでも、お風呂に入れたり、着物を着せたりという普通のことなら出来る。でも時間を教えたり、ひもを引張るとしゃべったりというような特別なことは出来ない。

夕食が済んだら、私は、《ようこそ、スズ》と書いた張り紙を作るつもりだ。《お帰りなさい、スズ》でもいいかも分かんないけど、それは今までいたところへ帰って来る人にいう言葉だと思う。ただの《ようこそ》が一番いい。もちろんスズは英語が読めないけれど、大事なのは思いやりだ。みんな、いつもそう言うもの。



2　スズを迎えに空港へ

今日スズがうちに来た。

私たちはみんな空港で待った。私は学校のある日だったけれど、ママが、今日は特別の日だから、休んでもいいって言った。ママは花模様の長いスカートと、黒のタートル・ネックを着て、少しおしゃれをしていた。ママは背が高く、やせていて、髪は縮れた茶色だ。みんな私はママに似ているって言うけれど、それは私も背が高くて、やせているからだと思う。本当は私はパパに似ている。とにかく、目と髪はそうだ。私ははしゃぎ過ぎないようにした。養子斡旋所の人がうちに来たとき、ママは私に、素直に感じよくしなさいと言った。素直で感じのいい態度をとるって難しい。機嫌が悪いときなんて、どうなるかしら。でもママは、ママもゲイブも再婚だから、斡旋所の人は、スズが落着かない家に来ると考えるかも知れないと言った。

「ママ、何時に着くの？　十二時だと思ってたのに。」

「お天気のせいで遅れているのよ。」とママが言った。

「飛行機が落ちないといいわ。」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com